

M8.8 国内最大

東日本大地震 先月から地震続発

11日午後2時46分ごろ、三陸沖を震源とする大地震があり、宮城県栗原市で震度7を観測した。東京23区でも震度5強を観測するなど、北海道から九州にかけての広い範囲で震度6強～1の揺れに見舞われた。震源は同県・牡鹿（おしか）半島の東南東約130キロ、深さは約24キロ。地震の規模を示すマグニチュード（M）は8.8。

総務省消防庁や各地の県警などによると、この地震による死者は午後6時半現在、宮城、福島、茨城などの6県で21人にのぼった。また、警察庁によると、行方不明者は30人以上、負傷者は90人以上になるとい

ろ。気象庁は、最大で10センチ以上の津波を予測し、北海道から徳島県の太平洋沿岸を中心に17地域で大津波警報を発令。福島県相馬市で7.3センチ以上、宮城県気仙沼市で6.0センチ、茨城県大洗町で4.2センチ、岩手県釜石市で4.1センチ以上の津波を観測した。

気象庁は記録が残る1923年以降、国内で最大の地震だとし、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」と命名した。

震源付近では2月にM5クラスの地震が4回発生。今月9日にM7.3、10日にM6.8の地震が発生するなど地震活動が活発化していた。陸のプレートに太平洋プレートが潜り込む地域で、逆断層型の地震だとい



津波が押し寄せ火災が発生した＝11日午後5時45分、福島県いわき市、本社ヘリから、西畑志朗撮影